

川口駅周辺商業地域における住居窓の開閉状況に関する意識調査

正会員 ○久保田 徹^{*1}
同 堀 端 文 野^{*2}
同 三 浦 昌 生^{*3}

住居窓 商業地域 都心居住

1. はじめに

住居窓の開放は換気・通風，湿気除去などの観点から重要であるものの，特に用途地域上の商業地域にあっては居住環境の悪化が著しく，日常的に住居窓を開放することは難しいと考えられる。本研究では，商業地域において日常的に住居窓を開放させる地区スケールの居住環境設計指針を検討することを目的として，川口駅周辺商業地域において住居窓の開閉状況に関するアンケート調査を実施した。

2. 調査方法

地区スケールの居住環境が良好となれば，住居窓の開放を志向する居住者は増大すると考えられる。すなわち，住居窓の開閉状況は地区スケールの居住環境の総合的な評価指標のひとつとして有効と考えられる。そこで，本アンケート票では，夏季および冬季の住居窓の開閉状況（8項目）を聞く質問を中心に構成した。

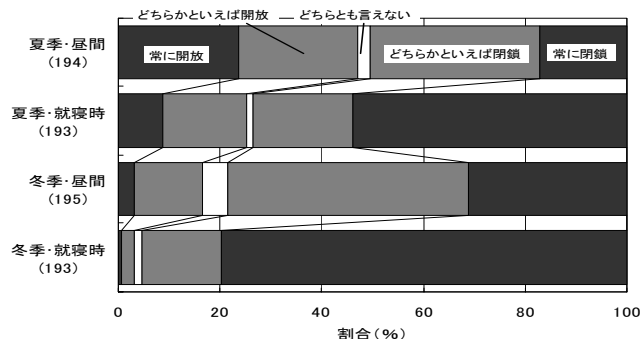
既報¹⁾では，川口駅周辺商業地域内を対象に外部騒音の実測を行っている。本調査では，この実測結果との照合を目的として，同商業地域から対象地区を選定した。居住階数によらない戸建て・集合住宅別の住民意識の差を比較検討する目的で，集合住宅に配布する場合には4階までの低層部に限るなどして，同地区内の約2400世帯から1086世帯を選出した。なお，アンケート票は直接投函によって配布し郵送によって回収した。

3. 調査結果

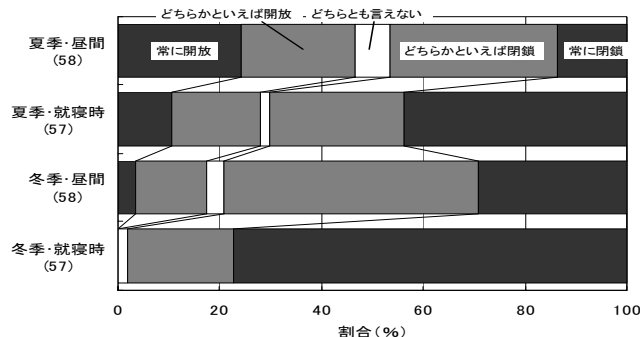
(1) 住居窓の開閉状況

アンケートは197世帯（回収率18%）から回答を得た（2000年12月実施）。なお，本アンケートでは，主婦など日常的に在宅時間が長い居住者に回答を依頼した。回答者の男女比は，約3:7で女性の方が多く，20才代から50才代まででは特に女性の比率が高かった。住居形式は，戸建て住宅が30%，集合住宅が70%であった。

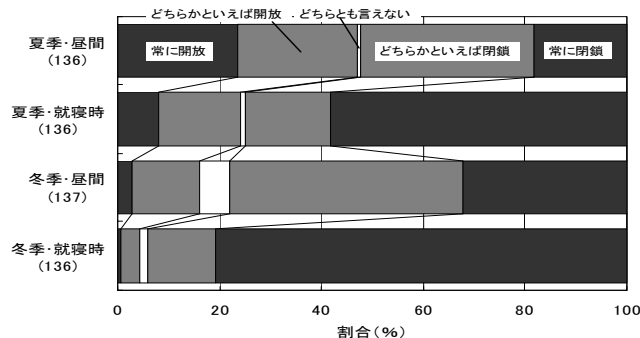
夏季（8月）および冬季（12月）における住居窓の日常的な開閉状況を聞いた結果を図1に示す。なお，ここでは昼間・就寝時の時間帯ごとに回答させている。回答者全体では，「常に開放している」と「どちらかといえば開放している」を合わせた回答は，夏季・昼間で47%，就寝時で25%，冬季・昼間で16%，就寝時で3%であった。当初，戸建て・集合住宅の違いによって住居窓の開閉状況に差が生じると予想したが，夏季・就寝時



(1) 全体



(2) 戸建て住宅

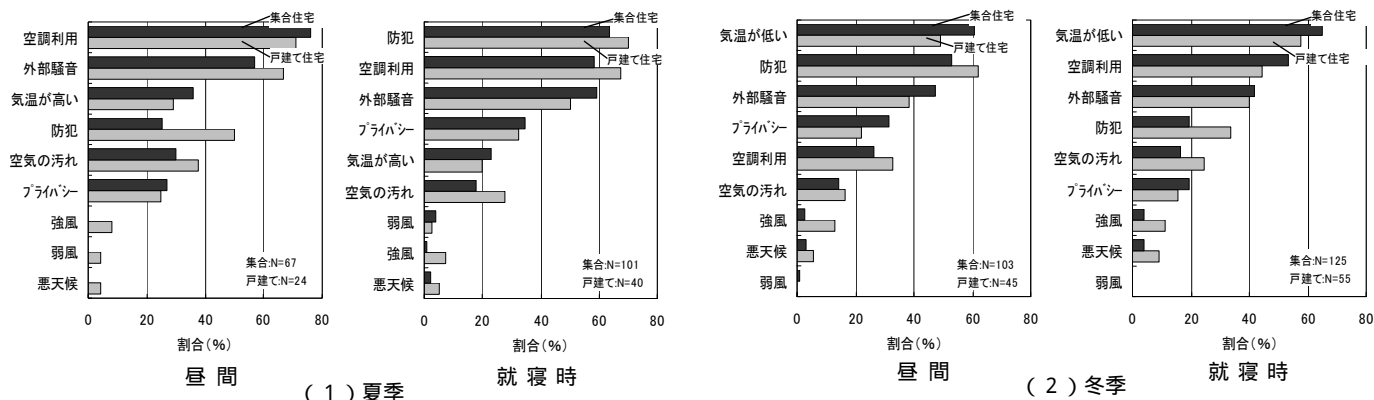


(3) 集合住宅

図1 夏季・冬季における住居窓の開閉状況

において戸建て住宅よりも集合住宅居住者の方が「常に閉鎖している」との回答がやや多いことを除けば全体的にその差はほとんど見られない（図1(2)(3)）。

次に，住居窓を閉めている理由を図中の9項目から複数回答可として選択させた（図2）。なお図2では，戸建て・集合住宅別の回答者数を基数にした割合を示している。回答者全体では，夏季の昼間に窓を閉めている理由として「空調を利用しているため:75%」を選択した回答者がもっとも多く，「外部騒音が大きい」ため:59%，



「気温が高いため:34%」,「防犯のため:32%」,「空気が汚れているため:32%」と続いた。夏季の就寝時および冬季においても、上位選択項目は概ね等しく、対象商業地域においては、特に、外部騒音、空気汚染、さらには、周辺の安全性が住居窓の開放を拒ませている居住環境上の問題であると考えられる。なお、戸建て・集合住宅別では、夏季・昼間と冬季・就寝時においては、集合住宅よりも戸建て住宅居住者の方が「防犯のため」を理由にあげる割合が高かった。

(2) 接道状況別にみた住居窓の開閉状況

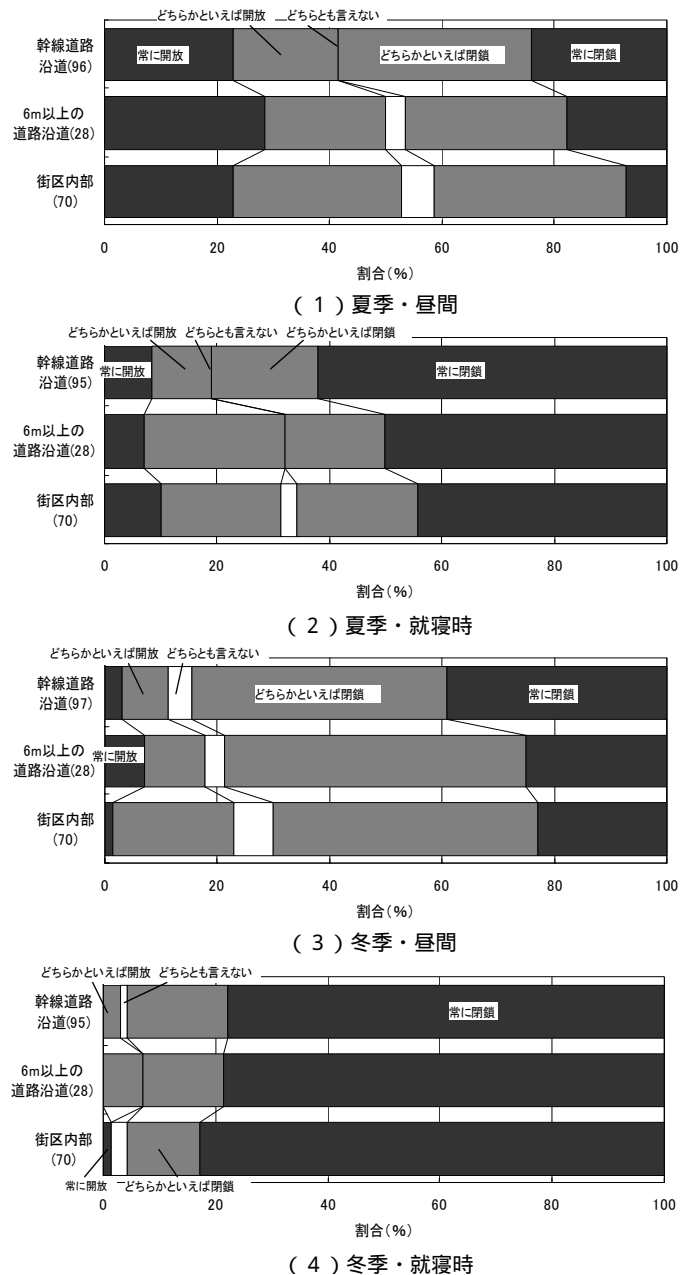
同商業地域内の騒音レベルの空間分布を検討した既報¹⁾では、幅員12m以上の幹線道路沿道、幅員6m以上の道路沿道、以外の街区内部の順に各空間あたりの平均的な騒音レベルが高いとの結果が得られた。そこで、本アンケート調査における窓の開閉状況の結果(図1(1))を同様の接道状況によって分類・集計した(図3)。図3では、冬季の就寝時を除き、より高幅員の道路に接し騒音レベルが高くなるほど住居窓を閉めている回答者が多くなる傾向が見られる。この結果から、住居窓を閉めている理由として空調の利用をあげる回答者が多かったものの、夏季や冬季の昼間においては、外部騒音などの居住環境が良好となれば、住居窓から外気を取り入れたいと考える居住者が多くなると推察される。

4. まとめ

本調査結果では、住居窓を開放している回答者は、夏季の昼間で47%、就寝時で25%であり、この割合は戸建て住宅と集合住宅居住者で概ね等しかった。また、騒音実測結果と照合したところ、外部騒音は住居窓を閉めさせる要因のひとつであり、道路沿道よりも街区内部の方が住居窓を開放する割合が高くなるとの結果を得た。

< 既発表文献 >

1) 久保田徹, 三浦昌生, 北川直樹: 都心居住推進のための川口駅周辺商業地域における暗騒音レベルの実態調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東北), D1, pp.161-162, 2000.9



*1 三浦研究室個人助手 博士 (工学)
*2 三井情報開発 (当時芝浦工大学部生)
*3 芝浦工業大学教授 工博

Research Assistant of Miura Lab., Dr. Eng.
Mitsui Knowledge Industry
Prof., Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.